

精神障害（統合失調症）の早期発見・早期治療の教育に関する陳情

（福祉健康委員会付託）

受理番号 第123号

受理年月日 平成22年11月22日

付託年月日 平成22年11月30日

陳情者
.

陳情原文 精神障害（統合失調症）は、誰でもが罹りうる心の病気で、100人に1人が発病していると言われております。江戸川区でも、平成20年の統計によりますと、精神障害者手帳交付者が2,850人、精神障害者医療費請求者が10,128人おります。現在はもっと増えていると思います。（精神障害者医療費請求者の30%は、精神障害者（統合失調症）と言う統計もあります）しかし、精神障害者手帳の交付を受けていない当事者は、もっとたくさんいます。これは、家族も当事者も誤解や偏見を恐れて、隠している方が多いからです。

精神障害（統合失調症）発病の原因は、まだ解明されておりませんが、学校や職場での人間関係、いじめ、勉強、仕事、登校拒否などの過剰なストレスと脳や神経の働きの不安定性の相互作用によって発病する慢性の疾患です。

また、精神障害（統合失調症）は、知的や身体障害者の方と違い、15～25歳の思春期に発病することが多い病気です。真面目で優しい子供が、突然に引きこもりや昼夜逆転になったり、幻覚や幻聴で暴れたりするケースが多く、発症初期の混乱のなかで、親はおろおろして唯びっくりするばかりです。漸く気づいて、病気に対する知識の勉強や病院を駆け回っているうちに、家族も当事者も年をとってしまったのが現状です。私達の精神障害者家族会「かたくりの会」の会員も60歳代半ばの方が半数以上で、私も69歳ですが、亡くなられる会員も出て来ております。

私の家庭の場合も、親の期待で勉強させてのストレスから登校拒否になり、発病しました。最初は、登校拒否とばかり思い、登校拒否の勉強や治療をしておりましたが、幻覚や幻聴、暴力が出るようになり精神障害（統合失調症）と診断されました。

知的や身体の障害の方には申し訳ありませんが、これらの方のように、精神障害（統合失調症）が小さい段階で発症する病気で有れば、もっと病気の勉強や覚悟ができ、対処もできたと思っております。しかし、年齢が行ってから発病する病気故に、親も当事者も年をとっている方が多くなっております。

昨今、精神障害（統合失調症）の早期発見、早期治療が言われております。しかし、誰もが「まさか、わが子が精神障害（統合失調症）だなんて」と思い、このような病気があることさえ知らないのが実情でした。実際、「東京都精神障害者家族会連合会（東京つくし会）」の家族会でも、「中学、高校の時に病気だと分かっていたら病院に連れて行ったのに」と悔やんでいる方が多いのです。

（裏面に続く）

早期治療には、まず早期発見が必要ですが、私達でさえ、精神障害（統合失調症）の病気だと分かって初めて勉強するような状態でした。先に述べましたように、このような病気があることさえ知らなかったのです。なんでもない一般家庭（家族）の方は尚更です。精神障害（統合失調症）に対する正しい知識があれば、誤解や偏見は起きないと思います。

このような実情を踏まえ、精神障害（統合失調症）は思春期に罹りやすく、誰でも罹りうる心の病気ですので、小学校の高学年、中学校、高校での早い段階からの心の健康問題（精神疾患など）に対する正しい知識の教育、また、一般家庭（家族）、担任や保健の先生への啓発、周知が必要です。

登校拒否やひきこもりなどがあれば、精神障害（統合失調症）についても疑ってみて、早期治療に繋げてほしいと思います。改めて言いますが、早期治療には早期発見が必要なのです。

つきましては、貴議会においてご審議のうえ、精神障害（統合失調症）の早期発見、早期治療についての教育と啓発のシステム作りを、江戸川区の施策に取り入れて頂きますよう、下記のとおり陳情致します。

記

学校で生徒に対して、精神疾患（統合失調症など）についての正しい知識を学校教育の場で教え、また、教師や一般家庭（家族）の方にも啓発して、早期発見と早期治療に繋げる以下の施策をお願い致します。

- (1) 小学校高学年から中学校向け、教師向け、一般家庭（家族）向けの分かりやすいリーフレットを作る
- (2) 教育委員会や校長会、教頭会での保健師による精神疾患の啓発講習